令和４年度

看護学研究科（博士前期課程）
問題・出題の意図・解答のポイント

令和４年１月22日

高知県立大学大学院

小論文

問　看護実践において、対象の全体性を捉えるとはどのようなことか説明し、全体性を捉えるための方略についてあなたの考えを述べてください。

（100 点）

＜出題の意図＞

看護実践において、対象の全体性を捉えてケアすることが求められる。この設問により、全体性に関する専門的知識、看護実践に対する洞察力、論理性と抽象的思考力をみる。

＜解答のポイント＞

看護実践において、対象の全体性を捉えるとは、対象を部分ではなく総和で捉えること、周囲の環境との相互作用を含めて捉えること、などについて説明し、方略として、時間軸や生活背景の視点をもって対話すること、複数の視点で捉えた情報を統合すること、などについて、自分の考えを述べていること。

英　語　ＣＮＳコース・研究コース

次の英文を読み、下記の質問に日本語で答えてください。

出典：Daniel Levi:Chapter 9. Decision Making: Group Dynamics for Teams 3rd edition, Sage Publications, Inc., p.162, 2011 より抜粋

＜出題の意図＞

大学院博士前期課程において必要となる基礎的な英文読解力と、設問の内容を的確に把握し解答する力をみる。

（100 点）

問１　グループで行う意思決定について、筆者はどのように述べていますか。要約してください。

（50 点）

＜解答のポイント＞

・最大のメリットは、問題解決のために多くの資源を投入できることである
・チームメンバーのモチベーションを高め、スキルアップにもつながる
・一方で、時間がかかり、必ずしも成功するとは限らない
・対立が多すぎる、あるいは少なすぎる場合や、早急な決定へのプレッシャーや外部のストレスなどによって、その意思決定能力が乱されることがある
・個人の意思決定よりも極端になる傾向がある
・集団内のよい関係性を維持したいという欲求が集団での意思決定の過程を妨げ、集団思考を引き起こすことがある

などを含み、要約していること。

問２　グループの構成員にとってよりよい意思決定を行うためには何が必要だと考えますか。英文の内容も参考にして、あなたの意見を述べてください。

（50 点）

＜解答のポイント＞

提示された英文も参考にして、自らの意見を述べていること。

英語　実践リーダーコース

次の英文を読み、下記の質問に日本語で答えてください。

(50 点)

出典: Marian M. Larisey: Chapter 3 Socialization to Professional Nursing, Joan L. Creasia, Barbara Parker: Conceptual Foundations of Professional Nursing Practice, Second Edition, Mosby-Year Book, Inc., p.47, 1996 より抜粋

＜出題の意図＞

大学院博士前期課程において必要となる基礎的な英文読解力と、設問の内容を的確に把握し解答する力をみる。

問１　下線部を日本語に訳してください。

(20 点)

＜解答のポイント＞

文章を正しく捉えて、日本語に訳していること。

問２　“献身と思いやりは、看護が自らを専門職と呼ぶのに十分なものなのでしょうか？”という問いについて、あなたの考えを述べてください。

(30 点)

＜解答のポイント＞

設問に対して、自らの考えを述べていること。

専門科目　がん看護学

問１　発熱のある進行がん患者への看護援助について、以下の１)、２）に答えてください。

(100 点)

１）進行がん患者の発熱の病態について、頻度の高いものを２つとりあげて、具体的に説明してください。

２）１）でとりあげた病態をふまえて、発熱のある進行がん患者への看護援助について、根拠とともに述べてください。

＜出題の意図＞

進行がん患者の生命や生活に様々な影響を及ぼす発熱を緩和する援助は重要である。この設問により、進行がん患者の発熱に関する専門的知識、苦痛緩和に関する看護実践能力、論理的思考力をみる。

＜解答のポイント＞

問１－１）　進行がん患者の発熱の病態について、感染症によるもの、腫瘍熱によるもの、緩和治療によるもの（薬剤、放射線治療、輸血等）、その他の病態（血栓症、脳出血等）などの点から説明していること。

問１－２）　発熱のある進行がん患者への看護援助として、１）でとりあげた病態をふまえて、発熱が及ぼす影響、全人的アセスメント、苦痛の緩和、日常生活への援助、心理的サポート、などを根拠とともに述べていること。

問２　がん患者のピア・サポートについて、以下の１)、２）に答えてください。

(100 点)

１）ピア（仲間）によるサポートと専門職によるサポートのそれぞれの特徴について、説明してください。

２）がん患者のピア・サポート活動に参加している人への看護者の支援として、有用と考える概念を１つとりあげて、その概念を用いてどのような支援を行うかについて、具体的に述べてください。

＜出題の意図＞

がん患者や家族がピア（仲間）と体験を共有し、共に考えることを通して不安や悩みを緩和する支援は重要である。この設問により、がん患者のピア・サポートについての専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

＜解答のポイント＞

問２－１）　ピア（仲間）によるサポートの特徴（体験の共有、情報交換や交流、同じニーズをもつピアの支え合い等）と専門職によるサポートの特徴（専門的知識の提供、意思決定支援、情緒的支援等）について、説明していること。

問２－２）　有用と考える概念（情報ニーズ、エンパワーメント等）を１つとりあげて、その概念を用いて、がん患者のピア・サポート活動に参加している人への看護者の支援について、具体的に述べていること。

専門科目　クリティカルケア看護学

問１　意思疎通が困難な人工呼吸器装着中の患者について、以下の問いに答えてください。

（100点）

１）患者の体験について、概念を１つとりあげて、具体的に説明してください。

２）１）をふまえて、患者に対する看護援助について、根拠とともに具体的に述べてください。

＜出題の意図＞

意思疎通が困難な人工呼吸器装着中の患者の体験を理解し、看護援助を提供することは重要である。この設問により、人工呼吸器装着中の患者の体験と看護援助に関する専門的知識、看護実践能力、論理的思考力をみる。

＜解答のポイント＞

問１－１）　患者の体験について、苦痛、不安などの概念を１つ用いて、具体的に述べていること。

問１－２）　上記１）をふまえて、患者のニーズを充足する、患者に合わせた意思疎通の方法を選択する、などの看護援助について、根拠とともに具体的に述べていること。

問２　事例を読んで、以下の１）、２）に答えてください。

（100点）

Ａさん（52歳、男性）は、胸部食道がんと診断され、右開胸開腹胸部食道全摘術、胃管食道再建術を受けた。手術後ＩＣＵに入室し、術後２日目には、循環動態も安定し、人工呼吸器から離脱し、気管チューブも抜管した。

抜管後、酸素吸入５L/分（40%ベンチュリーマスク）で、SpO_2 95～96%、Ａさんは「咳がうまくできない。痛み止めはなるべく使いたくない。まだ我慢できる。」としわがれた声で話している。15分後、呼吸数24回/分（浅い）、脈拍数96回/分（整）、血圧128/78 mmHg、SpO_2 95%、呼吸音は弱いが左右差なく、副雑音も聴取されない。痛みに対しては、硬膜外カテーテルからフェンタニル持続投与中である。

１）Ａさんの状態をアセスメントしてください。

２）１）をふまえて、Ａさんへの看護援助について、具体的に述べてください。

＜出題の意図＞

術後呼吸器合併症のリスクが高い患者の状態を評価し、早期に対応することは、重症化を防ぐ上で重要な看護援助である。この設問により、食道がん術後患者への看護援助に関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

＜解答のポイント＞

問２－１）　Ａさんのアセスメントとして、手術操作に伴う反回神経麻痺の可能性、疼痛による呼吸の抑制、喀痰喀出が不十分で呼吸器合併症のリスクが高いこと、などについて述べていること。

問２－２）　上記１）をふまえて、全身状態の把握、上気道閉塞の出現に留意した観察、鎮痛薬の積極的な使用、排痰援助、不安軽減、などの視点から具体的に述べていること。

専門科目　精神看護学

問１　Ａさん（20代、女性）は、中学生のときに仲の良かったグループから無視されるようになったことをきっかけに、イライラしたり不安になるとリストカットを繰り返すようになった。最近は職場での人間関係がストレスになり、自傷行為の頻度が増えている。Ａさんへの看護援助を２つとりあげて、根拠とともに具体的に述べてください。

（100点）

＜出題の意図＞

自傷行為を繰り返す患者に対して、より健康的な方法で感情やストレスに対処できる力を高める看護援助を行うことが重要である。この設問を通して、自傷行為を繰り返す患者の看護に関する専門的知識、看護実践能力、論理的思考力をみる。

＜解答のポイント＞

自傷行為を繰り返す患者の看護援助について、自傷行為を記録し振り返りを支援する、感情的苦痛への対処方法の習得を促す、自傷したと正直に伝えたことを支持する、などから２つとりあげて、根拠とともに具体的に述べていること。

問２　中高年の長期化するひきこもりについて、以下の１）、２）に答えてください。

（100点）

１）中高年の長期化するひきこもりが、当事者とその親にもたらす影響について、心理社会的概念を１つ用いて、説明してください。

２）１）をふまえて、中高年の長期化するひきこもりの当事者やその親に対する看護援助について、具体的に述べてください。

＜出題の意図＞

中高年の長期化するひきこもりは、高齢化した親が生計を支えることによる生活の困窮、社会的孤立、共倒れなどが問題となっている。この設問を通して、中高年の長期化するひきこもりと看護援助に関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

＜解答のポイント＞

問２－１）　中高年の長期化するひきこもりが、当事者とその親にもたらす影響について、孤独や共依存、自責などの概念を用いて説明していること。

問２－２）　１）をふまえて、当事者や親のつらさを受容し共感的に対応すること、地域の支援機関につなぐこと、当事者や親が集まることができる居場所をつくること、などの看護援助について、具体的に述べていること。

専門科目　在宅看護学

問１　在宅移行支援における訪問看護師と病棟看護師の協働について、以下の１)、２）に答えてください。

(100 点)

１）在宅移行支援において、入院中から訪問看護師と病棟看護師が協働する意義について述べてください。

２）退院に不安を訴える家族に対する訪問看護師と病棟看護師の協働について、具体的に述べてください。

＜出題の意図＞

患者・家族の思いに添った退院、早期の在宅生活の適応に向け、入院中より訪問看護師と病棟看護師が協働し支援していくことが重要である。この設問により、在宅移行支援に関する在宅看護の専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

＜解答のポイント＞

問１－１）　在宅移行支援において、入院中から訪問看護師と病棟看護師が協働する意義について、患者・家族のセルフケア能力に応じた医療的管理やケアのシンプル化、退院後予測される病状の変化や生活・介護上の課題に対する予測的な看護介入、退院後の生活への準備性の高まり、などについて述べていること。

問１－２）　退院に不安を訴える家族に対する訪問看護師と病棟看護師の協働について、在宅療養の具体的なイメージ化に向けた支援、不安内容の明確化と具体的な不安軽減への支援、家族のセルフケア力や在宅環境に応じた介護指導、などについて具体的に述べていること。

問２　以下の事例について、訪問看護師としてどのような看護援助を行うかについて、３つとりあげ、アセスメントとともに具体的に述べてください。

(100 点)

Ａさん（75 歳、女性、独居）は、65 歳の時から糖尿病と診断をされ内服治療を行いながら、入院直前まで趣味のサークル活動に積極的に参加するなど、自立した生活を送っていた。１か月半前、脳梗塞を発症し、２週間の内科的治療目的での入院となった。Ａさんは、右麻痺は軽く、入浴のみ一部介助が必要な状況で、他の ADL はなんとか自立

していた。しかし、トイレの場所がわからず迷ったり、更衣の順番がわからず混乱するなど、失行や遂行機能障害がみられ、何度も同じ説明と動作訓練が必要な状況があった。退院後は、糖尿病食の配食サービス（昼、夕）を利用し、入浴介助、掃除、洗濯、買い物（日用品等）は、訪問介護サービスを利用していた。しかし、配食のお弁当にはあまり手をつけておらず、服薬状況を確認すると「服薬した」というものの、糖尿病の薬が多く残っていた。また、退院１か月後、かかりつけ医を受診すると、血糖値 300 mg/dl、HbA1c7.5%と上昇しており、医師のすすめで訪問看護が導入されることになった。

＜出題の意図＞

生活への適応に困難をもたらすとされている高次脳機能障害をもつ在宅療養者への自立支援は、看護者の重要な看護ケアである。この設問により、高次脳機能障害をもつ高齢者への看護援助に関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

＜解答のポイント＞

訪問看護師の看護援助として、Ａさんのセルフケア能力を明確にする、できていないことへの気づきを促す、服薬の自立に向け繰り返し説明する、チームメンバーで統一したケアを提供する、などから３つとりあげ、アセスメントとともに具体的に述べていること。

専門科目　災害・国際看護学

問１　平成 28 年熊本地震において、政府は初めてプッシュ型支援を行ないました。以下の文章も参考にして、プッシュ型支援の課題を１つとりあげて、その対策について看護の視点から述べてください。

（内閣府「防災情報のページ」より
http://www.bousai.go.jp/taisaku/hisaisyagyousei/push.html　2021.6.10 アクセス）

（100 点）

＜出題の意図＞

大規模災害発生当初に、被災者の命と生活環境に不可欠な物資を届けることは、重要な課題である。この設問により、大規模災害におけるプッシュ型支援の課題に関する理解度、災害看護に関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

＜解答のポイント＞

プッシュ型支援の課題として、その地域で暮らす人々のニーズに応じた物資が送られてくるとは限らない、送られてきた物資が避難者の生活に有効に活用されていない、などについて、看護の視点から述べていること。対策として、要配慮者も含めた地域の状況を考慮した必要な物資をアセスメントする、避難所間で必要な物資の情報を交換し物資のやり取りの方法を検討する、などについて、看護の視点から述べていること。

問２　災害の現場で活躍する看護職が徐々に増えてきました。災害対策や実践において看護師が連携して機能を果たすための方略、および連携を国際化するための方略について述べてください。

（100 点）

＜出題の意図＞

看護職が国内外で連携しながら災害に対応していくことは重要な課題である。この設問により、災害看護における連携に関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

＜解答のポイント＞

連携して機能を果たすための方略として、学会での交流や研究会での協働を通した連携の具現化、災害現場での連携による相乗効果の獲得、国際化するための方略として国際緊急援助隊医療チームへの参加、国を超えた情報発信を通したネットワークの構築、などについて述べていること。